

# 長野日報 2月4日 掲載

## 児童ら科学工作に夢中

### 駒ヶ根で教室 駒工生27人も指導



県テクノ財団伊那テクノバレー地域センターは3日、第17回上伊那子ども科学工作教室を駒ヶ根市のJR駒ヶ根駅前ビル・アルパで開いた。上伊那地方の4年生以上の小学生65人が参加。工作キットを使いリモコン制御できるロボットアームを製作し、ものづくりの楽しさを感じながらモーターやギアの仕組みを学んだ。(高島剛志)

子どもたちが科学やものづくりに毎年開いている。地元企業8社が協力。駒ヶ根工業高

校の2、3年生27人も指導役として子どもたちを支援したほか、モーターやギアの仕組みについて説明した。

ロボットアームは五つの関節があり、つかむ、持ち上げる、回すなどの動作が可能。いくつもギアを組み合わせる複雑な構造で、児童らは苦労しながらも、駒工生や協力企業の社員らのサポートを受け、集中して作業に取り組んだ。完成すると荷物をつかんで移動させるゲームを行い、完成度を競った。

同センターテクノコーディネーターの瀬田(ねぎた)六己さんは「ロボットの基本的な動きを知ることができる工作。小学生には少し難しいが、苦労や達成感を味わい、ものづくりの魅力を感じてもらえれば」と話していた。

↑ 駒工生の助けを得ながら工作に没頭する児童ら